

## 平成30年度 自己評価計画に係る結果と分析・課題について(中間評価)

石川県立鶴来高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月結果	アンケート分析等からの分析と課題
1 生徒指導の方針・基準に一貫性のある協力体制のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに、規範意識の高揚を図る。	① 挨拶を含めた所作の指導を、学校生活の中で行う。	生徒指導課 各学年	【満足度指標】 来校者・教職員、地域の方、そして友人・クラスメートに明るく元気な声で挨拶・お辞儀等ができる。	学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	(83.8)% (C)判定	自らすすんでよく挨拶している生徒は全体で83.8%となっており、昨年度より4.1%増加している。(H29:79.7%→H30:83.8%) 今後も「遅刻ゼロ・挨拶運動」の取り組み等を通して積極的な挨拶指導を図り、学校全体へ浸透させていく。
	② 望ましい服装容儀や規範意識の向上に対して全職員が積極的に指導にあたる。	教頭 全職員	【努力指標】 積極的に生徒への声かけを教員が協力して行っている。	服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(86.5)% (C)判定	本校生徒の実態を考慮すると、学校生活の様々な場面で積極的な声かけと毅然とした具体的な指導が必要である。
	③ 規則正しい生活習慣と機敏な行動を確立するよう指導することで、遅刻の減少に努める。特に朝の始業5分前に着席するよう強く指導する。	生徒指導課 教務課 各学年	【成果指標】 規則正しい生活習慣が身につくことで、1年あたりの遅刻人数が20%以上減少している。	1年あたりの遅刻人数が、 A 20%以上減少した。 B 15%以上減少した。 C 15%未満の減少であった。 D 減少しなかった。	(67.8)% (A)判定	前年度の同時期と比較して学校・授業間遅刻ともに減少(学校:H29:359→H30:244、授業間:H29:210→H30:142)している。「遅刻ゼロ・挨拶運動」や常習者の指導を行うことが遅刻者数の減少に繋がっている。今後も学年・生徒指導・家庭が連携し、粘り強い指導を図る。
	④ 全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	生徒指導課 全職員	【満足度指標】 「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が高い。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(97)% (A)判定	SNS上の書き込みや自分本位のコミュニケーション不足が原因のトラブル等が多く見受けられる。今後も、いじめ対策委員会やアンケート結果等の情報を共有し、速やかに対応する。
	⑤ ゴミの分別を通して、環境美化の意識が向上するよう指導する。	保健厚生課 全職員	【満足度指標】 環境美化に努め、ゴミを正しく分別できる。	ゴミを正しく分別できていると考えている生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満  ゴミを正しく分別できていると考えている教職員の割合が A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満	生徒 (96.5)% 教職員 (97.3)% (A)判定	ほぼゴミの分別はされているが、まだ完全とは言えず、学期末や長期休業中などに大掃除した後には少々ではあるが分別がされていない状況も見受けられるので周知徹底を図りたい。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月結果	アンケート分析等からの分析と課題
2 教育活動全般をとおして、生徒に自信と一体感を持たせる。	① 個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自分に自信を持たせ、希望する進路を実現するよう努力させる。	進路指導課 3年学年会 各教科	【成果指標】 国公立大学に現役で3名以上合格している。	年度末の進学状況において、国公立大 学合格者が、 A 5名以上 B 3～4名 C 2名 D 1名以下		
			【成果指標】 就職希望者が11月末までに100%内定している。	11月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満		
	② 遠足・球技大会・鶴翔祭・手取川歩行・式典等の学校行事を通して、自信・一体感を育成する。	特活課 総務課 各学年	【満足度指標】 本校の学校行事が、生徒の自信と一体感につながっている。	学校行事を通して自信・一体感を持つことができたと感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 75%以上80%未満 C 70%以上75%未満 D 70%未満	(69.3)% (D)判定	全体的に評価が低く、2年生の割合が62.9%と特に低い評価であった。学校行事において、運営や企画など各学年が積極的に関わることのできる工夫を考えたい。
	③ 地域とともに歩む学校として、生徒・教職員・保護者が一体となり地域の清掃や行事などのボランティア活動に参画して取り組む。	特活課 総務課	【努力指標】 教職員、生徒ともに積極的にボランティア活動に参加する。	学校全体を通して、部・委員会・各課でボランティア活動に参加した合計回数が、 A 55回以上 B 40回以上55回未満 C 30回以上40回未満 D 30回未満		
3 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、個々の生徒の進路を実現させるよう努力する。わかる喜びや学ぶ意義を実感できるように努める。	④ 生徒の部活動に対する充実感、達成感を高めるとともに活性化を図る。	特活課	【満足度指標】 生徒が部活動に対して意欲を持って取り組んでいる。	部活動に対して意欲を持って取り組んでいる生徒の割合が、 A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満	(79.2)% (C)判定	加入率の多い1・2年生は評価が高いが、加入率の低い3年生は評価も低い。3年間継続して部活動に取り組むことができるよう、丁寧な指導が必要である。
	① 様々な背景や問題を抱えた生徒を理解するために教員が連携できる体制を整え、学校外からも助言を得ながら適切に支援できる能力の向上を目指す。	教務課 各教科 教育相談室	【努力指標】 教職員は個々の生徒理解に努めた上で、学習指導を行う。	個々の生徒に応じた指導内容や分かりやすい授業づくりに取り組んでいるという教職員の割合が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(94.4)% (B)判定	生徒の学力や意欲に差があり、必然的に生徒に応じた指導が必要になっている。ICT機器などの利用を促し95%以上を目指したい。
	② 教科でテーマを決め、また、互いに授業を参観することにより授業力の向上を図る。少人数であることを活かした効果的な授業を行う。	教務課 各教科	【満足度指標】 習熟度別や選択授業が、生徒の学習活動に対して効果的に実施されている。	自分の理解度に応じた充実した授業が行われていると感じる生徒が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(88.2)% (C)判定	教科内でPDCAサイクルを回すために教科内での話し合いを増やし、相互に授業参観を促し授業の工夫の促進を図る。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月結果	アンケート分析等からの分析と課題
4 家庭学習時間や読書時間の増加を図り、授業内容の定着と国語力の向上を目指す。	① きめ細かく面談を重ねることで、学習意欲を向上させ確かな学力の育成を図り、将来の目標設定にもつなげていく。	各学年 進路指導課	【努力指標】 生徒との個人面談を実施して、生徒の進路意識・目標を高める。	生徒一人ひとりとの個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回 C 5回 D 4回以下		
	② 家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身につけさせることにつなげる。	進路指導課 教務課 各学年	【満足度指標】 担任・教科担当・部顧問と連携し、文武両道を実践させる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上60%未満 C 40%以上50%未満 D 40%未満	(50%) (B)判定	特進クラスの家庭学習時間は、ほぼ確保されつつあるが、普通クラスにおいてはまだ不足がある。今後、課題を工夫するなどしていく。
	③ 学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。	教務課(図書担当)	【成果指標】 様々な方法で図書室利用者数を増加させる。	年間の図書室入館者数が延べ A 5,000名以上 B 4,500名以上5,000名未満 C 4,000名以上4,500名未満 D 4,000名未満		
5 地域全体への広報活動に加え、中学校とのつながりを強めるための活動を教員個々が実践する。	① メール配信サービスの保護者登録数を増やし、学校行事や教育活動等をきめ細かく情報提供していく。	総務課	【成果指標】 学校の様子を知らせる様々な配付物の通知メールを小まめに配信することで、保護者の利便性を高めて、登録数増につなげる。	年度末の保護者のメール登録数が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(87.6%) (C)判定	自然災害発生時の日程変更等のみならず、様々な学校からの連絡事項を伝達する重要な手段であることを認識していただくため、保護者懇談会等の機会を使って登録を呼びかける。
	② 中学生やその保護者に本校の教育活動をより理解してもらえるよう、ホームページの内容を充実させる。	総務課	【成果指標】 ホームページを頻繁に更新して、鶴来高校の生徒たちの活発な活動とタイムリーな情報を発信している。	ホームページの年間更新回数が A 360回以上 B 300回以上360回未満 C 240回以上300回未満 D 240回未満		
	③ 教職員一人ひとりが中学校・地域とのつながりを強めるために積極的に活動する。	教職員全員	【努力指標】 教職員一人ひとりが積極的に中学校や地域と連携する活動を実践している。	中学校・地域とのつながりを強める活動ができたと思う教職員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満		
6 教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。	① 各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握し、超過勤務時間の縮減に努める。	教職員全員 教頭	【努力指標】 教職員一人ひとりが自らの勤務時間を把握し、業務内容を精査して超過勤務時間の縮減に取り組んでいる。	超過勤務時間の縮減に取り組んだと思う教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	(76.4%) (C)判定	まだ十分に、超過勤務の縮減に取り組んでいるとはいえない。より職員全体の意識を向上させるため、実際の数字をもとに職員会議等で呼びかける必要がある。